



東中だより

目指す学校像
キャッチフレーズ

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)
男子 210
女子 173
計 383

9月1日 防災の日に想うこと

校長 阿部 仁

～今夏の自然災害～

この夏を振り返ってみると、自然災害が頻発した夏であったように感じます。7月28日に発生した熊本地震、8月13日から14日かけての千葉豪雨、8月22日夕方の蕨市周辺のゲリラ雷雨と、23日未明の震度5弱の地震、8月27日未明からは石川県・富山県を襲った大雨など、枚挙にいとまがありません。これらの災害によってお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々の1日でも早い復興を願うばかりです。

～ステージが上がる“災害への備え”～

近年、気象現象が激しさを増してきている中、「予測」を用いた対応はますます重要になっています。同時に、「想定外」の事態も視野に入れ災害への備えを平時から積み重ねておくことが大切であると考えます。例えば、ゲリラ豪雨への備えとしては、こまめな気象情報の確認、雷探知機の作動状況の確認、雨雲レーダーによる降雨の状況や今後の見通しの把握などを行い、それらの情報を基に、屋外活動の中止や、雨脚が強い場合の校内待機、早めの下校措置、保護者への連絡などを、適切に連動させる体制を整えておくことが必要です。また、浸水被害によって避難者を受け入れる場所の確保や運営体制への協力、本校自体の浸水を防ぐための土嚢の設置など、様々な対応が考えられます。こうした対応を、災害が起きてから考えるのではなく、平時から一つ一つ確認し、点検していくことが重要だと思います。

～塚越地区避難所運営協議会～

毎夏恒例の避難所運営協議会(避難所開設訓練)、塚越地区は去る28日に実施しました。今回は、本校が避難所となった場合を想定し、避難者に開放するエリアの確認、様々な支援を必要とする避難者への対応の在り方、炊き出し場所の確認など、より具体的に、参加者全員でシミュレーションを行いました。参加者がそれぞれの立場から意見を出し合い、よりよい避難所運営の在り方を互いに確認できたことは、非常に有意義な訓練となりました。学校側としては、避難所運営への協力と同時に、教育活動の再開も視野に入れた対応が求められます。教育活動の再開に向けて動く職員と、避難所運営に携わる職員をどのように配置するのか、それぞれの活動や対応のステップをどのように構築するのか、より具体的な内容を詰めていく必要を感じました。改めて思うことは、現在も避難所として使用されている学校、そして過去に避難所として使用された学校には、実際の経験に基づく貴重なノウハウが蓄積されているということです。そうした先行事例に学び、本校の防災・避難所運営の在り方に生かしていくことが、今後ますます重要になってくると考えます。

～熊本地震被災者への支援～

冒頭に述べた熊本地震で被災された方々への支援として、WSSが中心となって「熊本地震災害義援金募金活動」を行います。詳しくは配布されるチラシをご覧ください。生徒のみならず、保護者・地域の皆様も趣旨をご理解の上、ご協力いただければ幸いに存じます。ー了ー